

3

履修モデル

アスリートコース（アスリート）履修モデル

アスリートコース（アスリート）で育成を目指す人材像

自己の競技力向上に関わる理論と実践を結びつけ、自らの感覚で運動を覚えたり運動の習熟度を高めることができる、目的とする動きのかたちを作りだすことのできるコツやカンを覚える、自らの感覚で覚えた運動を修正しながら新しい動き方を生み出すことができる、といった運動創発能力を備え、競技スポーツに関する諸問題（課題）に柔軟に対応できる人材。

	1年	2年	3年	4年
総合教育科目	◎自主創造の基礎（前） ◎コンピュータ・情報リテラシー（前） ◎スポーツ講義（後） ◎スポーツ実技1（前） ○英語I（前） ○英語II（前） ○英語III（後） ○英語IV（後）	○英語V（前） ○英語VI（前） ○英語VII（後） ○英語VIII（後） 哲学1,2 論理学1,2 倫理学1,2 宗教学1,2 文学1,2 文章表現1,2 歴史学1,2 近代史1,2 科学技術史1,2 地理学1,2 文化人類学1,2 心理学1,2 社会学1,2 教育学1,2 経済学1,2 政治学1,2 生活と法 数学1,2 統計学1,2 地球科学1,2 健康の科学1,2 救急処置法 教養特殊講義1～6 の中から16単位		
実習科目	競技スポーツ実習I（前） 競技スポーツ実習II（後） 競技スポーツ習得実習I（前） 競技スポーツ習得実習II（後）	競技スポーツ実習III（前） 競技スポーツ実習IV（後） 競技スポーツ習得実習III（前） 競技スポーツ習得実習IV（後） 競技スポーツ方法実習I（前） 競技スポーツ方法実習II（後） スポーツトレーニング実習I（前） スポーツトレーニング実習II（後） トレーニングキャンプ マネジメント実習I（前） トレーニングキャンプ マネジメント実習II（後）	競技スポーツ方法実習III（前） 競技スポーツ方法実習IV（後） スポーツトレーニング実習III（前） スポーツトレーニング実習IV（後） トレーニングキャンプ マネジメント実習III（前） トレーニングキャンプ マネジメント実習IV（後）	
専門基礎科目	◎競技スポーツ原論（前） ◎トレーニング学原論（後） スポーツの法と倫理（前） 近代スポーツ史（後）	◎コーチング学原論（前） ◎スポーツ運動学原論（後） スポーツ生理学の基礎（前） スポーツ医学の基礎（前） 機能解剖学の基礎（前） スポーツ栄養学の基礎（後） スポーツ心理学の基礎（後） バイオメカニクスの基礎（後）		
専門共通科目	スポーツ観察演習I（前） スポーツ観察演習II（後）	◎コーチング学研究法演習（後） 試合論（前） メンタルマネジメント（前） オリンピック・パラリンピック論（前） トレーニング計画論（後） スポーツビジネス論（後）	メンタルマネジメント演習（前） トレーニング計画論演習（前） スポーツ栄養学演習（後） バイオメカニクス演習（後） アンチドーピング論（後）	
専門コース科目		技術トレーニング論（前） 戦術トレーニング論（後） 判定競技論（前）	技術トレーニング論演習（前） 戦術トレーニング論演習（後） 判定競技論演習（前） スポーツマネジメント演習I（前） スポーツマネジメント演習II（後）	
ゼミナール・卒論・卒研・卒演			競技スポーツ専門演習I（前） 競技スポーツ専門演習II（後）	競技スポーツ専門演習III（前） 競技スポーツ専門演習IV（後）

卒業の要件と履修モデル

※1 科目名の前に付記されている記号で、◎は必修科目、○は選択必修科目を表す。

※2 卒業要件に必要な最低限の修得単位数を前提とした履修モデルである。

※3 資格取得（日本スポーツ協会公認スポーツ指導者免除適応コースなど）関連科目については、別に定める科目一覧を参照のこと。